

やまと 民俗への招待

今月20日午後、春日大社の正遷宮奉祝行事として、大和高原に伝わる11の民俗芸能が奉納された。まず山添村の北野・峰寺的野松尾・桐山・室津に伝わる神事芸能、続いて奈良市・阪原・柳生・狭川・邑地に伝わる神事芸能、さらに山添村菅生のおかげ踊り、奈良市田原の祭文音頭、同市大柳生の太鼓踊りが次々と上演された。

秋祭りの神事芸能は、「豊田樂」、「神能」などと呼ばれる田楽であるが、山添村のものも、寺鳥唱子に素

模を身につけたお渡り衆が、舞床に置いた楽器を扇であおぎながら回ったり、土地の繁栄を願うめでたい詞章を唱えたりするもので、米や小豆をまいて無事に役目を終えたトーヤの家を祝福する「踊り込み」も演じられた。

奈良市の神事芸能も田楽で、こちらは回ったり、行き違ったり、跳んだりする田楽だった。翁舞や抱き合っ



春日大社で、神事芸能「豊田樂」を奉納する山添村北野の人々=筆者提供

祈りの芸能 一堂に

がりが推測でき、興味深い芸能ばかりだった。さうに流行の踊りを、奈良市・北野の神事芸能も田樂で、こちらは回ったり、行き違ったり、跳んだりする田楽だった。翁舞や抱き合った。翁舞や抱き合つたり回ったりする相撲も行われた。互いにそれぞれ独自な伝承を持つおり、春日大社の祭文音頭は、より高度な相似部分もあるが、そのおん祭りとのつながりは近年中断していたもので、躍動的な踊りが際だっていた。

芸能には、より高度な練磨へと向かう専門化の道と、村落などで共有する道がある。後の芸能は、富座などの中の仕事のなか、村落共同体の安寧の祈りの能として伝えた菅生のおかげ踊りと、語り物伊勢講の踊り込みの芸能として伝えた菅生の能として人々が順繰りに演じ、また楽しめた。伊勢講の踊り込みの芸能として今日まで伝えられてきた。土地で生きるための芸能が奉納される姿を、多くの人々がまんじりともせずに注視していた。大和人の信仰と芸能する心が嘉されたように、本殿の千木の飾り金具が光っていた。

(奈良民俗文化研究所
代表・鹿谷勲)